

第二回矢部川学識者懇談会 議事概要

日時：平成23年3月17日 11：30～12：10

場所：福岡県八女土木事務所日向神ダム管理出張所会議室

出席：（委員）小松委員長、猪上委員、岩渕委員、加藤委員、駄田井委員、
西川委員、矢野委員、渡辺委員
（事務局）国土交通省筑後川河川事務所 塚本技術副所長 他
福岡県八女県土整備事務所 廣松所長 他

【議事】

1. 日向神ダムについて

- ・事務局より「日向神ダム弾力運用」について説明。

（主な意見）

◎弾力運用のボリュームはどのように決定したのか。前期と後期で3倍以上ボリュームに違いが出ているが。

○過去の実績洪水からの予測によって決定。梅雨期の前期と後期で雨の降り方は大きく異なるのでボリュームに差異が生じている。

◎流水環境の悪化とは。河川環境の改善を目的とした弾力運用か。利水を確保するための弾力運用なのか。

○河川環境を改善するため、河川維持流量確保を目的に弾力運用は行っている。

◎洪水期と灌漑期は重なっていないのか。重なっていた場合、洪水調節と弾力運用とどちらを優先させるのか。

○洪水期と灌漑期は重なっているが、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で弾力的管理試験を実施している。

◎日向神ダムからの維持流量がないとのことであるが、発電ガイドラインの対象となっているか。

○次回以降の懇談会の場で、回答します。

2. 対応方針を検討する際の評価軸について

- ・事務局より「治水対策案、環境整備」について説明。

(主な意見)

◎河口堰は治水対策のイメージだが。潮を止めると同時に上流の河床掘削が可能となる効果も期待できる。こちらに触れてコメントしては。

○反映します。

◎治水を考える上で山林の荒廃が問題と考えているが県はどう考えているか。

○治水メニューは考えておらず、維持管理計画での対応を考えている。次回以降説明します。

◎河川環境においては水量が最も重要ではないか。

○矢部川のクリークによる取水実態が複雑で取水量の変動が大きいため、河川の正常流量を設定していない。なお、流量調査や環境調査等の河川や流域の調査を継続し複雑な農業用水の利用特性等の把握を行うとともに、日向神ダムの弾力的管理試験を継続実施していく。

◎矢部川の水量の経年変化を教えてください。。

○次回以降、データを示します。

* なお、上記◎は委員の意見、○は事務局の発言